

# 実験

## ものを燃やすくふう ~割りばしを燃やすと~

### 手順

めあて

ものを燃やして、ものや空気の変化を調べさせる。

手順

① 空き缶を用意する。  
(下穴、上穴、穴なし)



② 石、割り箸を入れる。



間隔を開けて紙に割り箸をさすことで、空気の流れがよくなる。

火をつけた別の割り箸を準備し、空き缶の中の紙に火をつける。

(3つ同時に行う、または時間を計りながら別々に行うなど、比較ができるようにする。)

下穴



下から空気が入るので、一番よく燃える。

上穴



穴なし



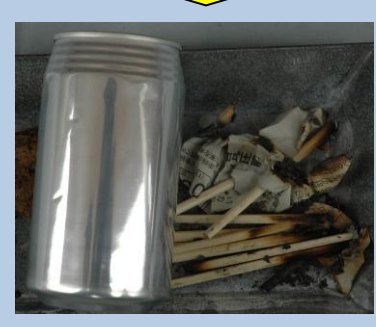
空気が入りにくいので燃えにくい。



よく燃えるので、缶が変色することがある。



下の方が燃え残りができやすい。



# 実験

## ものを燃やすくふう ～割りばしを燃やすと～

# 準備

### 準備物 (1班分)



- ① 空き缶 (3個)  
(下穴、穴なし、上穴)
- ② マッチ (ガスライター)
- ③ 新聞紙 (1/8ページ×3)
- ④ 石 (3個)
- ⑤ 割り箸 (缶の高さに合わせた割り箸、10本×3組)
- ⑥ 金属トレイ (1～3個)

※ 防火用のバケツ等も準備しておく。  
必要に応じて、缶切り及び千枚通し

### かんの穴のあけ方

① 缶切りでふたを切り取る。

② 上から3cmの間に

③ 下から3cmの間に

缶切りを使った経験のない児童も多い。

使い方を押さえておくと、「てこの規則性」の單元にもつながるので、使わせておきたい。

理科室や家庭科室に備えられていないこともあるので、事前確認が必要。



千枚通し等で穴を開ける。

### その他

- ① 実験前に、管理職に「ものを燃やす実験」を行うことと場所を連絡しておく。
- ② 実験場所 燃えやすいものを近くに置いておかない。  
室内…火災報知器に注意、ぬれぞうきんの上にトレイを置く。  
室外…風が強いときは注意、土の上で行うのが好ましい。
- ③ 割り箸…同じものをそろえる。(種類が違くと燃え方が異なる。)